

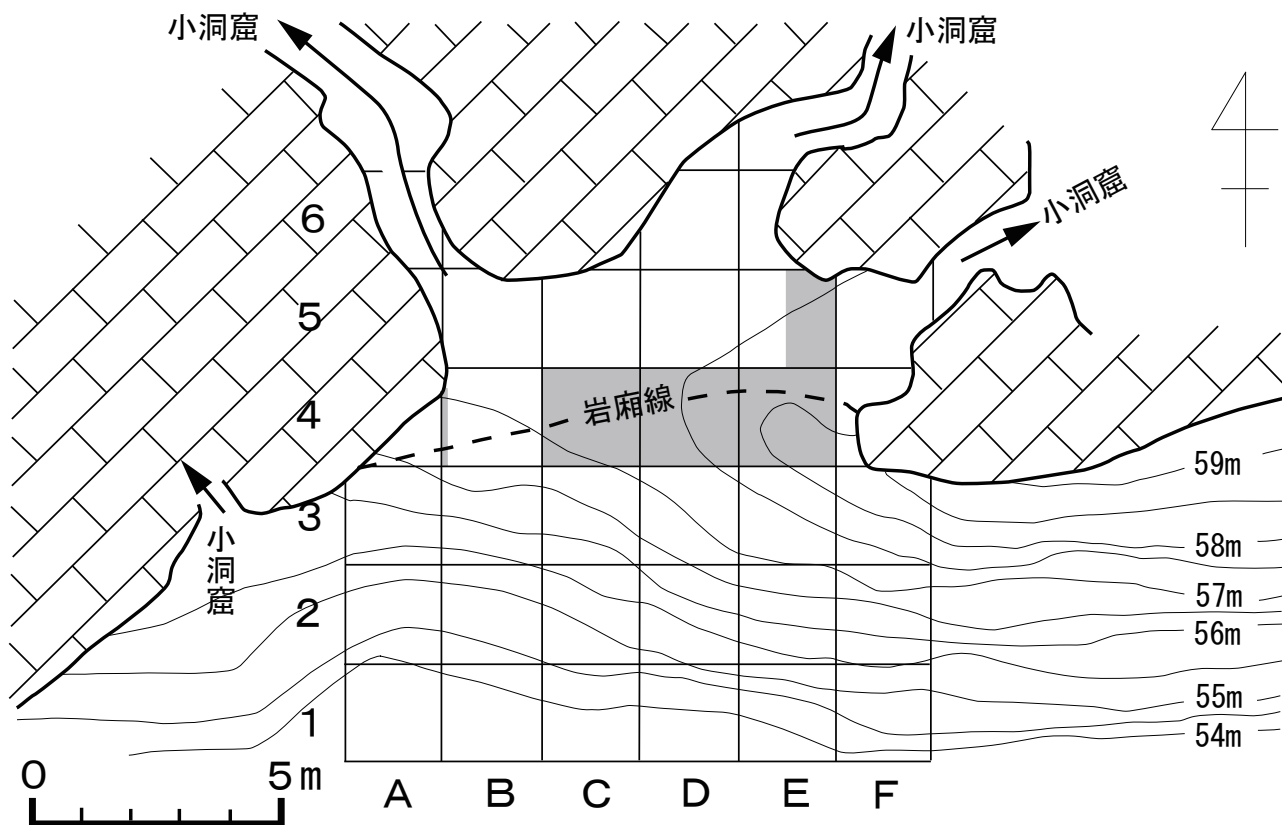


2011 年度 帝釈峡遺跡群発掘調査 II 期（8 月 17 日～23 日）

帝釈大風呂洞窟遺跡（第 16 次）の調査

帝釈大風呂洞窟遺跡は神石郡神石高原町永野字大風呂に所在します。遺跡は帝釈川の支流岩屋谷川の左岸、帝釈観音堂洞窟遺跡の直上の急斜面上に位置しています。標高は約 460 m、岩屋谷川との比高差は約 57 m で、遺跡まで辿りつくのも毎回苦労するような急な斜面の中腹に位置します。洞窟は開口幅約 11 m・奥行き約 4 m・岩廂（いわびさし）の高さ 3～3.5 m でテラスの広さは約 40 m² となっており、南に向かって開口しているため、日当りは当時も良かったと思われます。

本遺跡は 1996（平成 8）年から調査が開始され、今年で 16 回目の調査となります。こ



第 1 図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図
（網掛け部は第 I 期の調査範囲）

れまでに縄文時代・弥生時代・古代・中世の遺物が出土しており、本遺跡は各時代に断続的に利用されていたということが確認されています。

今年度の調査は、昨年度に引き続き、岩廂側のC、D、E - 4区の調査に加え、洞窟内部のE - 5区の調査も行っています。4区列では縄文時代早期～草創期もしくは縄文時代以前の第5層、5区列では縄文時代後期の第3層を掘り込み、当時の生活の様子を調査しています。

2011年度の第Ⅰ期の調査では、E - 5区で火を使った痕跡である焼土が、わずかながらも発見されるなどしました。第Ⅱ期では、縄文時代の古い段階の遺物、遺構の有無を確認するために引き続き第5層の調査を行っていきます。またE - 5区では今期も焼土面が発見されました。今年度の調査では、京都大学から動物考古学が専攻のお二方が参加され、特に動物骨の分野においては、広大の学

生だけでは分からなかったことまで明らかになってきています。

今年度の調査も残り一週間となりましたが、当時の生活を明らかにするような発見のため、今年も可能な限り尽力しようと思っておりますので、今後の成果にご期待下さい。また、8月の27日（土）には本遺跡にて現地説明会を行いますので、是非お越しください。

（3年 藤井 翔平）



写真1 発掘調査風景



写真2 E - 5区焼土（破線の範囲が焼土）

コラム『初めての発掘調査を終えて』

私は今回初めて発掘調査に参加しました。発掘調査の初日は、なにか遺物を掘り出すことができるかなと期待に胸を膨らませる一方で、知識も乏しく発掘の経験もないために先生や先輩方に迷惑をかけてしまうのではないかと不安に思う気持ちもありました。現場では先輩方が丁寧に教えてくださり、初心者なりにではありますが精一杯掘ることができました。

約一週間に及ぶ発掘調査に参加して痛感したことは、発掘は体力勝負だということです。発掘作業はもちろんですが、現場まで行くのにも相当な体力が必要となり、発掘調査2日目以降は筋肉痛との闘いでした。

今回の発掘調査では、機材を組み立てるのが遅いなど他の人にいろいろと迷惑をかけてしまったこともありましたが、初めて体験することばかりだったのでとても新鮮でした。

来年は後輩が入ってきて私たちが教える立場になるので、この発掘調査で学んだことを忘れず、さらに知識や経験を増やしていきたいと思います。

(2年 林 美和)

コラム『発掘調査を通して』

今回、私は京都大学から大風呂洞窟遺跡のⅠ・Ⅱ期発掘調査に参加させていただきました。私は今まで近世の遺跡や遺物、しかも主に動物ばかり扱ってきたので、大風呂洞窟遺跡のような発掘調査はすべてが新鮮でした。

絵地図や文献史料の残る近世と違い、古代の遺跡は何が出るのか、本当に出るのかすべてが手さぐりです。わずかな手掛かりから調査方針を決定し、そして古代の生活を復原しなければなりません。特に調査方針については、現場の状況を的確に把握し、すばやく決めていく必要があります。私は現在修士1年ですが、発掘経験はこれで2回目という貧弱さです。しかし、現場では同じ修士1年の学生さんがリーダーを務めており、世間的には私にも同じだけの力量が求められています。今後の研究のためにも、もっと総合的な知識・技術を身に着ける必要性を強く感じました。

広島大学の皆様、今回は大風呂洞窟遺跡を共に発掘調査する機会を下さり、本当にありがとうございました。(京都大学大学院 小舟 みなみ)

8月18日 ゆきキッズクラブ「1日考古学者」

8月18日に油木小学校の子供たちが発掘調査の体験にやってきました。今回4回目の参加と
いった猛者もいて、とてもありがたかったです。

今回参加した子供たちの中から考古学を学び
世紀の大発見をする人がでることを祈っています。



人物往来

8月18日 ゆきキッズクラブ「1日考古学者」(油木小学校の児童達)

8月19日 山内研究科長

同上 事務局の方々

同上 学部4回生

同上 M1 今福拓哉

参加者名簿 (Ⅱ期 8月17～23日)

広島大学文学研究科 教授 古瀬 清秀

同上 准教授 竹広 文明

同上 大学院生 小川原 励 (M1)

広島大学文学部生 市川伯博・藤井翔平・森本直人 (3回生) 赤木智香・上利碧月・中田南美・林美和 (2回生)

京都大学大学院 小舟みなみ・松崎哲也 (M1)

筑紫女学園大学 大津忠彦教授、宮田麻菜美・山本詠夢 (4回生)

陣中見舞い

西別府元日先生 ビール・コーヒー

大津先生 のり、お菓子

神石高原町教育委員会 ビール・お茶・お菓子

山内研究科長 金一封

文学研究科支援室一同様 お茶・お菓子

弥生食堂さん トマト

油木公民館 ビール

編集後記

早いもので帝釈大風呂洞窟遺跡の発掘調査も残すところ約一週間となりました。現在までの調査で第3層から縄文時代後期の焼土(炉跡)や第5層から縄文時代早期・草創期以前の動物骨が見つかってきています。しかし、第5層からは未だ人工遺物は見つけられていないため、Ⅲ期は人工遺物が出土することを切に願っています。

また発掘の成果を現地説明会(8月27日14時から、雨天時は神石公民館にて)で発表します。ぜひお越しください。(編集 小川原)

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel:0824-24-6663)

帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈未渡野田原 (Tel:08477-6-0101)

研究室ホームページURL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>